

晩冬

許された、そのときに流れた涙——
私は、そのような春の気配に怯えている

後悔と、そして
ひたすら先へと続いている小径の、横顔

もう、これまでにしたい
終わらせてしまいたい、という希い

私はひそかに憐れみを請うている
そして、同時にそれを拒んでいる

海はただ、そこにある
花々はただ、そこに咲いている

私はただ、ここに立ち尽くしている——
何者とも向き合わずに

私は、春の気配に怯えている
季節が私を置き去りにする——

(2010.2.20)